

Press Release

2025 年 4 月 1 日

Art Center NEW

2025.06.01 グランドオープン

みなとみらい線 新高島駅地下 1 階

横浜に新しいアートセンターが誕生します。

Press Release

2025 年 4 月 1 日

Art Center NEW のオープンによ せて

80 年代が終わりに差し掛かった週刊少年マンガ雑誌が爆発的に売れていた時代、最新号が通常の書店より 3 日ほど早く店頭に並ぶ謎の本屋が隣町にあって、お目当ての連載を誰よりも早く読もうと自転車を走らせ向かっていたあの時に感じていたワクワク。90 年代、友人の家の部屋で手渡された、ニューヨークでデビューしたというバンドのファーストアルバムを聴いた時に、あまりにカッコよすぎて電撃が走ったこと。また 00 年代前夜に、ロンドンのアートセンターで現代美術に初めて触れた時の “なんじゃこりゃ !?” という未だかつてない衝撃。新しい文化との出会いの記憶には、その時の感動と共にそれに触れた場所の風景が伴う。ただここ 10 年ぐらいは、全ての新しい情報は片手におさまった小さな画面から洪水のように流れ込んできて、その圧倒的な情報量にめまいを覚える。

その小さな画面からは、世界で起きている、目を背けたくくなるような悲惨な出来事もリアルタイムで流れてくる。容赦のない空爆で逃げ惑う人々。一人ひとりの顔の見えない死亡者の数。貧困、飢餓、難民、格差、分断。大国は、正義の代わりに力を振りかざし、自分たちのことだけを考えると声を大にするようになってしまった。一方で、地球温暖化をはじめとした、未曾有の自然災害というフレーズをあまりに頻繁に目にするため、この星が抱えている事の深刻さに気付くための感覚が麻痺してしまったかのようだ。

もちろん自身が選び取っている情報の種類によるのかもしれないけれど、その小さな画面から流れ続けるこうした情報に浸っていると、なんだか気が滅入ってくる。その体験には、新しいものに触れる際の、ワクワクといった期待、カッコいいという感動、そしてなんじゃこりゃ !? という驚き、あるいは物事の深刻さが伴わない気がするのだ。やはり、私たちには、手のひらの画面の中ではない、リアルな場所が必要なのだと思う。だから Art Center NEW をはじめようと決めたのだ。

Art Center NEW が探求するのは、新製品のような単純な新しさだけではない。これまでにない物事の捉え方だったり、社会問題を理解するための新たな思考方法であったり、未知の人々との出会いであったり、自分自身がほんの僅かであっても変化や成長する機会であったり。名称の冠にあるとおり、その中心にあるのは文化と芸術だ。この場所に訪れてほしいのは、若者はもちろん、社会人や年配の方、親御さんや子供たちまで。どの世代、どんな立場であっても、私たちは何かを諦めることなく、新しく変わり続けていくことができるはずだ。そこには、いつも、期待、感動、驚きが待っていて、新しい何か、そして新しい自分と出会うことができる。Art Center NEW が、そんな場所になっていけたらと思う。

Art Center NEW ディレクター 小川希

Art Center NEW

Press Release

2025 年 4 月 1 日



新しいアートセンター

Art Center NEW（アートセンターニュー）は、新高島駅地下1階を舞台として、2025年6月1日に新たに誕生する芸術複合施設です。駅の中の大空間を拠点としながら、現代アートの展覧会、海外作家の招聘及び展示、周辺地域を舞台としたアートフェスティバル、欧米・アジア・グローバルサウスの諸国との芸術を通じた国際交流及び国際展、国内外のオルタナティブスペースが一堂に会するプラットフォーム、子供から大人まで受講できるアートスクールやワークショップ、ジンやアートグッズの出版および販売など、展示鑑賞後にゆっくりとくつろげるカフェなど、芸術や文化に関わる多種多様な試みを展開していきます。

“NEW” というキーワード

本施設のコンセプトとなるのは、名前にもつけられた“NEW”というキーワードです。新しい、これまでになかった、という言葉の意味の通り、“Art Center NEW”では、アートに関わる多種多様な試みにおいて、新たな価値観やこれまでになかった視点の数々を提案していきます。具体的には、新しいアーティストや表現を紹介する展覧会＝NEW Exhibition、新しい知識を得ることができるレクチャーやワークショップ＝NEW Study、周辺地域と協働して開催する芸術の祭典＝NEW Festival、まだ知らない海外の作家たちを招聘する＝NEW Residence、など新たな発見をもたらす様々な企画を発信していきます。こうした試みのもとに、国内外から多種多様な人々が集うことで、次代を担うアーティストやキュレーターといった新しい人材が育ち、本施設がハブとなり周辺住民や周辺企業を巻き込んだ新たな関係性が生まれていくことが期待できます。またこの場で展開する様々な活動を通して、「新しさとは何か？」を常に問い続けるアートセンターを目指します。

横浜の芸術文化の新時代へ

Art Center NEWからはじまる様々な活動は、横浜の芸術文化の新時代を切り拓きます。そこでは、国内外のアーティストやアート関係者、また横浜で生活をする人々や周辺企業が集い、互いに影響を及ぼし合うことで、芸術文化による新しい可能性を次々と生みだし、日本のみならず世界から注目を集めるスポットになることを目指します。多種多様な活動を通じ、新しい未来を横浜に生み出す Art Center NEW は、横浜の国際的なプレゼンスの向上を担っていきます。

Art Center NEW

Press Release

2025 年 4 月 1 日

Art Center NEW グランドオープン記念展覧会

『NEW Days』

Art Center NEW のグランドオープンを記念して、“新しい日々” をテーマにした展覧会『NEW Days』を開催します。Art Center NEW の全会場を使った、スペースのお披露目もかねた展覧会です。

会期：2025 年 6 月 1 日（日） - 7 月 20 日（日）

開館時間：12:00-20:00、定休日：水、木

観覧料：一般 1,000 円、大学生 800 円、高校生以下無料

参加作家：

尾崎藍、キンマキ、下司悠太、トモトシ、中野岳、東野哲史、大和楓、三田村光土里

作家紹介：

尾崎 藍（おざき あい）

1991 年生まれ。東京造形大学絵画専攻卒業。2022 - 2024 年にライクスアカデミーのレジデンスプログラムに参加。ビデオ、立体、テキスト、ドローイング、インスタレーションなど多様な手法で制作を行う。身体や経験、感情といった個人的な事柄が他者とどのように結びつき、共有されるのかに関心を寄せ、異なる時代や文化を越えて交差するイメージの可能性を探究する。

<https://www.ai-ozaki.com>

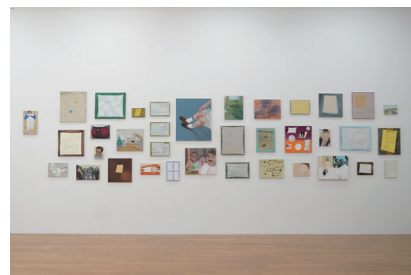


「壺 Jars」2023-2024
セラミック、木材、石、野菜、塩

キンマキ

1995 年三重県生まれ。2020 年、武蔵野美術大学 大学院 造形研究科 修士課程 美術専攻 油絵コース 修了。家族が書いたメモ（買い物メモや to do list など、日常の中で何気なく書かれたもの）や、iPhone で撮影した日常の写真（主に家族）をモチーフに、油絵を描いている。

kimmaki.tumblr.com



武蔵野美術大学 油絵研究室 助教 研究成果展
「beautiful name」展示風景 2024
全てキャンバスに油彩

下司 悠太（げし ゆうた）

1994 年生まれ。2017 年東京造形大学造形学部デザイン学科グラフィックデザイン専攻卒業。卒業後オフソサエティ株式会社に勤務。美術館開館支援業務や施設の施工などを行う。在職中から家事代行業を兼業。会社と家事代行を辞め、個展『反抗的味噌汁』（2022. コウシンキョク）を実施。自身が社会人になった頃から始めた、米と味噌汁で生活を成立させることやボイコットのために服を自作する、等の行動を発表し始める。



「みそ仕込み」2024
ライブハウス、DJ・アーティストの方々、大豆、麴、塩
撮影：ナガタダイスケ、磯崎隼士

Art Center NEW

Press Release

2025 年 4 月 1 日

作家紹介：

トモトシ

1983 年山口県生。大学を卒業後数年にわたって建築設計に携わる。2014 年より展覧会での発表を開始。新しい都市の使い方をテーマに制作している。2020 年よりトモ都市美術館を運営し、ワークショップを通じて都市に主体的に関わる提案をしている。

<https://tomotosi.com/>

中野 岳（なかの ぐく）

1987 年愛知県生まれ。2017 年シュトゥットガルト国立美術大学ファインアート科ディプロマ課程修了。滞在する国や地域の特色を取り入れ、生活を反映した彫刻やパフォーマンス、映像作品などを制作している。近年は「スポーツのような身体運動を創作する」というプロジェクトの実践をはじめ、ルールの可塑性と地域性の関わりにアプローチする。

<http://gakunakano.com>

東野 哲史（ひがしの てつし）

1976 年滋賀県生まれ。武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科卒業。非生産的生産活動という名目のもと、日常の取るに足らないものと単なる思いつきに対してのレスポンスを制作の起点として、インスタレーション、ビデオ、Web、パフォーマンスなど、メディアを問わず展開する。

<http://www.workth.net/>

大和 楓（やまと かえで）

1998 年徳島県生まれ。2024 年金沢美術工芸大学彫刻専攻卒業。沖縄県在住。個人の身体技法をその社会秩序の大きさとして捉え、日常の中に埋もれている些細な身振りから一つの型を掘り起こすことをテーマに作品を制作している。2021 年に手書きの新聞「ぽよぽよ新聞」を立ち上げ、毎月執筆中！好きな食べ物はシュークリームとあずき。

三田村 光土里（みたむら みどり）

1964 年愛知県生まれ 東京在住 フィールドワークから得られる私小説的な追憶を題材に、写真や映像、言葉や日用品等の多様なメディアと組み合わせた空間作品を国内外で発表。滞在型プロジェクト「Art & Breakfast」では世界各地で人々と朝食を共にし、個人の日常の気づきをユーモアと文化的差異を越えた眼差しのインスタレーションで視覚化する。

<https://www.midorimitamura.com/>



「ミッシング・サン」2021
シングルチャンネル映像 14 分 3 秒



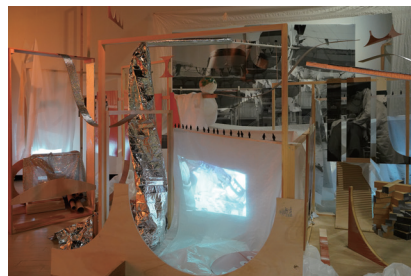
「椅子取りゲーム」2018
パフォーマンス、映像 7 分 46 秒、サウンド、HD



「ブルースとブルース」2024
脚立、平鍋、台車、マイク、マイクスタンド、アンプ、プロジェクター、広東米酒、龍の置物、米、封筒ほか



「Flip the paper near the chin」2023
木材、新聞紙、バンド 撮影：Inami Taro



「Till We Meet Again - また会うために私はつくろうー
のためのインスタレーション」恵比寿映像祭 2022
写真、映像、木材他。

Art Center NEW

Press Release

2025 年 4 月 1 日

Art Center NEW 運営団体

一般社団法人 Ongoing

2009 年設立。

Art Center NEW を運営する一般社団法人 Ongoing は、東京の吉祥寺にあるアートスペース Art Center Ongoing の活動を中心として、15 年以上にわたり現代アートにまつわる様々な展覧会やアートイベントを企画・開催してきました。これまでに開催した展覧会は400を超えており、国内外の若手からベテランまで、数百人を超えるアーティストのネットワークを形成しています。この豊富な経験と関係性を活かし、Art Center NEW では様々な事業を展開していきます。



Art Center Ongoing

Art Center NEW ディレクター

小川希（おがわのぞむ）

1976 年東京生まれ

2001 年武蔵野美術大学映像学科卒業、2003 年東京大学大学院学際情報学府入学大学院修士課程修了、2006 年同大学院博士課程単位取得退学

武蔵野美術大学非常勤講師（2011 ～）、成蹊大学非常勤講師（2022 ～）、東京芸術文化評議会アール・ブリュット検討部会専門委員（2015）、東京都現代美術館アール・ブリュット事業振興事業アドバイザーボード委員（2017）

2008 年 1 月に東京吉祥寺に芸術複合施設 Art Center Ongoing を設立。文化庁新進芸術家海外研修制度にてウィーンに滞在（2021 年 -2022 年）。中央線沿線周辺を舞台に展開する地域密着型アートプロジェクト TERATOTERA ディレクター（2009 年 -2020 年）、レター／アート／プロジェクト「とどく」ディレクター（2020 年 -2022 年）、茨城県県北芸術村推進事業交流型アートプロジェクトキュレーター（2019 年）など多くのプロジェクトを手掛ける。

令和 6 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。



Art Center NEW プレスリリース

お問合せ先

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 5-1 新高島駅地下 1 階

TEL : 090-9207-6434

web : <https://artcenter-new.jp>

Email : info@artcenter-new.jp

Art Center NEW 広報担当（平野）

Art Center NEW